

## 議会報告会報告書（議会報告）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:00～19:54
開催場所	松本市寿公民館 大会議室
出席議員	池田国昭、太田更三、草間錦也、南山国彦、近藤晴彦、青木豊子、柿澤 潔、犬飼明美、阿部功祐、上条美智子、吉村幸代、若林真一、青木 崇、今井ゆうすけ、井口司朗
参加人数	56名
報告に対する質疑	<p>Q：新庁舎の建設場所が現在地に決定された理由と建設中はどこに移転して業務を行うのか、不安に思うが見解を聞きたい。</p> <p>A：市民からの要望を受け、4カ所の候補地を選定して比較検討した結果、都市計画に伴う土地利用規制等を変更するには時間とお金がかかること、また市を二分した過去の事例を踏まえ、市が有識者の意見等を参考に責任をもって現在地に決定し、議会も了承した。</p> <p>Q：仮移転先と予算はどのくらいか。</p> <p>A：仮移転先も予算もこれから示されることになるが、現在約20億円の基金があり、これも活用していくことになる。</p> <p>Q：新庁舎建設の経過の説明で、平成29年6月に有識者による検証、平成29年12月に特別委員会を設置とあるが、有識者は誰が選んだのか。本来は特別委員会で選ぶべきで、順番が逆のような気がする。</p> <p>A：ご指摘のとおりと思う。</p> <p>Q：市議会議員の役割は、市民の声を市政に反映させることにある。建設場所が決定されて1年以上も経ってから議会で説明することをどのように考えているのか聞きたい。</p> <p>A：ご指摘のとおりで、決定後に多くの市民からご意見をいただいた。意見聴取は十分ではなかったと思う。今後、丁寧な説明をしていきたい。</p> <p>Q：中信松本病院が村井町に移転し、跡地が空いている。市立病院の建設用地の取得がまだのようなので中信松本病院の跡地を建設場所として検討してみてもどうか。また、新庁舎が現在地に建設されれば、松本城が世界遺産登録を目指すうえで支障とならないか。</p>

	<p>A：市立病院は西部地区の基幹病院としての役割がある。概ね波田地区内に建設することが住民合意のうえで決定され、議会も了承している。中信松本病院跡地への移転は難しい。</p> <p>A：松本城周辺には、外堀の復元等多くの課題がある。議会でも議論になったが、高さ制限等も考慮して建設されるので、世界遺産登録を目指すうえで支障はないとの回答を市から受けている。</p>
<p>その他</p>	<p>要望：松本の南部地域に15名もの議員が集まって話を聞ける機会なのに、地元の話が出てこない。この地域に関する項目が一つでもあったほうが、忙しい中出席した住民にとっては参加した意義がある。今後の要望としたい。</p>

松本市議会議長 様

平成30年11月23日

上記のとおり報告します。

報告者 井口 司朗

## 議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成30年11月20日（火） 20:00～20:50
開催場所	寿公民館 大会議室
出席議員	井口司朗、草間錦也、南山国彦、吉村幸代、今井ゆうすけ
参加人数	27名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>Q：各町会で防災倉庫を設置しているが、公民館にはないため資材を入れておく場所がない。資材を調達する際においても、各町会では市から補助があると思うが、公民館はどうやって資材を調達しているのかわからない。避難所である限りは、市の方で防災倉庫や資材の調達については対応してもらいたい。また、公民館でも避難訓練を実施できないか。</p> <p>A：過去の一般質問の際に、市内に35ある公民館にアンケート調査を行ったが、その結果「いろいろなものを備えたいが場所がない」と回答した人が非常に多かった。「防災倉庫を作りたくても敷地がない」、あるいは「一部屋とられてしまうと困る」という回答もあったが、大事なことなので、できるだけ力を入れてもらえるように改めて要望していく。</p> <p>Q：通学路沿いのブロック塀が倒壊することを心配し、何とかしたいと思っている所有者も多いが、そういう方の背中をちょっと押してあげるような施策を市の方で進めてもらいたい。</p> <p>A：市にも提案していきたい。</p> <p>Q：明善小学校が指定避難所になっているが、高齢者があの坂道を登って避難することは大変だと思う。どうすればよいのか。</p> <p>A：指定避難所が地域の実態に即した場所なのか検証する時期になっていると感じる。早速市の担当課に伝える。</p> <p>Q：松枯れ対策について、中山丘陵全体に被害が拡大しており、大雨などにより、枯れた松が公道に倒れたり、電線に引っかかったりすることを危惧しているが、市の考え方を聞きたい。</p> <p>A：市としては、薬剤の空中散布をするということでやってきたが、反対意見が出て、一部の地域では中断している。市としてはやる方向で考えているが、地域住民の中でも賛否両論がある。地域の中で防災の面から心配する声を挙げてもらうことも必要ではないか。</p>

要望：周辺の指定避難所は寿小学校だけであり、ポリテクセンターも避難所に指定するよう働きかけてきたが、議会にも協力してもらいたい。

意見：公民館に発電機を設置してあるが、照明用の電気を発電するだけで、建物内の電気や冬場の暖房に使えるようになっていない。

要望：地域づくりセンターと1次避難所の公民館の間など、災害時において情報のやりとりができなければ何もできないので、市として知恵を出し、場合によっては予算をつけて、情報をやりとりする手段を真剣に検討してほしい。

意見：コミュニティ助成金の申請をしているが、なかなか当たらないため、特に大きな資材を何も買えないでいる。また、町会には助成があるが、地区にはないため準備ができない。

意見：今年初めて大規模な避難所開設の訓練をした。多くの人が集まったが、あれこれ市に求めるのではなく、一番は自分たちの命をどう守るかを常に頭の中に入れ、アイデアを出し、工夫していかなければならない。

意見：核家族化が進み、隣の家ですら何人で住んでいるのかわからないことが多く、人数の把握ができないのが現実である。どこの家には何人いるのかをチェックしていかないと取り残される家族も出てしまう。

意見：「向こう三軒両隣」という昔からの言葉があるが、その言葉のとおり関係を親密にしていかなければならないという話が、地域づくり協議会の防災部会の中で出ている。

意見：9月に寿地区12町会をあげて防災訓練をやったが、市の防災設備をつかった際に、調子が悪く順調に使えなかった。12町会の各公民館に防災部があり、月に一回防災部長会をやっているが、各防災部の備品や設備に関しては予算の関係からばらつきがあると認識している。全ての箇所でレベルを上げ、皆同じようなレベルでやっていきたいと考えている。

また、防災訓練時に安否確認を行ったが、参加率が60%と低かった。この原因は、アパートが多かったり、市営住宅があったり、町会に入っていないなかったりと色々あると思うが、防災意識を高揚するために何とか頑張っていきたい。

要望：災害時に負傷者を搬送する際には担架で運ぶことになるが、各公民館には担架が設置されていないので、是非設置してもらいたい。また、AEDの設置もお願いしたい。

	<p>要望：防災訓練前に、市からハザードマップをもらったが、そこには雨天時に詰まりやすい側溝が書いてあるだけであった。公民館に貼ってあるような地震発生時の揺れやすさを表すマップをイメージしていた。市の事業ではないかもしれないが、住民に注意喚起を促すようなものを用意してほしい。どちらかというとそのハザードマップを見ると、この地域は大丈夫ではないかと感じたので、住民に寄り添ったものを作ってほしい。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成30年11月27日

上記のとおり報告します。

報告者 今井 ゆうすけ

## 議会報告会報告書（議会報告）

開催日時	平成30年11月20日（火） 20:00～20:52
開催場所	寿公民館 講義室
出席議員	阿部功祐、池田国昭、近藤晴彦、上條美智子、若林真一
参加人数	10名
報告に対する質疑	<p>テーマ名（ 高齢者と子供の見守り ）</p> <p>参加者：寿台の福祉協議会で福祉ひろばを担当しているが、高齢化や一人暮らし世帯が増加傾向にあり、行事に参加してもらえない、出てこられないという実情があるが、そのことを議会としてどのように考えているか。</p> <p>議員：議会の一般質問でも話題は出ている。（地域包括ケアシステム等の市の施策を説明した後）議会としては市の取組みが一步でも、二歩でも進むように後押しをしている。</p> <p>参加者：ボランティアに対する手助けとなるような補助（活動資金）を考えてもらえないか。</p> <p>参加者：80歳位の方もボランティアでやっているが、何でも地域でやるように言われることが多く大変。今後高齢化、人口減少でますます大変になるという認識が議員から見えてこない。</p> <p>参加者：認知症サポーターの講座を受けてみたが、勉強会のようにやる気が沸かない。やる気が沸くような講座を望む。また秘密事項が多すぎる。民生・児童委員は色々なことを知っていると思うので、差しさわりのない内容を仕事をしている方たちに教えてほしい。</p> <p>参加者：職務上知り得た情報を公表してはいけないということは理解できる。</p> <p>参加者：情報の共有がされていないことが問題。</p> <p>議員：（個人的な意見として）大事なのは一つに絆づくり。これを進めていくうえで専門性も持って行政に通じた人と財源が必要。地域の皆さんに託しているばかりでなく、2つの要素を行政として考えていかななくてはならない。地域包括支援センターの強化も重要な議論になる。</p> <p>参加者：子どもを見守るのは高齢者。見守りの体制を企業に働きかけ、若い世代にもボランティア活動ができるような時間がつくれるように、議会としても訴えかけてほしい。</p> <p>参加者：手当がでるからと言えば若い人たちも参加してくれるのではないか。</p>

	<p>参加者：ボランティアには有償と無償がある。世界的には有償だが、日本だけが無償なのでは。私たちは小銭が欲しい。お金がないと動かない。</p> <p>参加者：学校でも行事やイベントがあるとボランティアとして手伝いに行かないといけない。</p> <p>議員：コミュニティ・スクール事業は、地域と学校のつながり、地域とともにある学校づくりに位置付けられている。顔の見える地域づくりであり、寿地区は市内でも先進的な活動をしている。</p> <p>参加者：言っていることはわかるが、それが重荷になっている。</p> <p>議員：一方で生きがいとして楽しみにしている方もいる。(コミュニティ・スクール事業の説明)</p> <p>参加者：にこにこルームは良い。休み時間に昔の遊びを教室の中がいっぱいになるほど集まって遊んでいる。</p> <p>議員：そのような交流ができると自然と挨拶が生まれる。お互いを見守りに繋がる。ただボランティアの押しつけになっていることは課題の一つ。</p> <p>参加者：町会にお金(事業手当)が入ると義務感としてやらなくてはならないとなる。</p> <p>参加者：ボランティア活動の理解を職場に働きかけていくことは大事なことでと思う。企業側の意識が改善されれば働く世代がもっと地域に参加できようになるので、議会としても働きかけてほしい。地域には高齢者と子どもしかいないのではなく、働く世代に一番動いてほしい。</p> <p>議員：消防団も団員の確保を企業に働きかけている。働く世代の方が地域に関わるようにすることは課題の一つだと思う。</p> <p>参加者：通学路の雪かきは会社の理解を得てやっている人もいないか。学校からの啓蒙、親自身の見守りの視点の両方が広がるような機運が高まればよい。</p> <p>参加者：(子供の虐待に事件を受けて行政間での引継ぎがなかった事に関連して)松本市も虐待に関してしっかりと取り組んでほしい。</p> <p>議員：児童虐待は現状増加傾向にあり、しっかりと対応していく。</p>
その他	<p>参加者：南部地域に関連した情報はないか。</p> <p>議員：南部地域では村井駅の整備事業が進められている。一般質問等でも取り上げられている。(村井駅の整備について説明)</p> <p>参加者：芳川地区には大きな公園があるのに寿地区にはない。そういうところを作ってもらいたいとの話もあった。</p>

	<p>参加者：寿地区にはコミュニティバスがなく、公民館に来る交通手段がない。</p> <p>議員：コミュニティバスは地域で意思決定をしてもらえば。</p> <p>議員：松本市の公共交通の方針は、JRの駅やバス停から一定の距離内であれば公共交通の空白地域とみなされない。空白地域ではないところにも公共交通を確立できるようにしなければならない。前提として地域の皆さんがまとまらないといけない。デマンド交通などはこれから求められると思う。</p> <p>議員：地域公共交通は皆さんの意見を聞いていかないといけないが、自分たちも利用していかないといけない。</p> <p>参加者：中信松本病院の跡地利用はどうなっているのか。</p> <p>議員：特段の情報はない。</p> <p>参加者：寿台2丁目の市営住宅は放っておかれるのか。</p> <p>議員：現実はそうでしょう。</p> <p>参加者：団地はいっぱい空いている。</p> <p>議員：募集停止をしている。整理統合をしていくというように聞いている。</p> <p>市民：市営の住宅なのに何も言えないのか。</p> <p>議員：国は公営住宅を増やさない方針であり、建替えや新築ということが難しい。</p> <p>議員：公営住宅は顕著に高齢化が進み、かつ一人暮らしになる。そこに若い人を呼び込むことができない。</p>
--	--

松本市議会議長 様

平成30年11月27日

上記のとおり報告します。

報告者 若林 真一



## 議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:57～20:55
開催場所	寿公民館 視聴覚室
出席議員	犬飼明美、太田更三、青木豊子、柿澤 潔、青木 崇
参加人数	13名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域の活性化 ）</p> <p>参加者：活性化しているとはどういう状態を指すのか。</p> <p>議員：住民同士のつながりの多さや年代が広く活動していること、地区のお祭りに若い人が来ていることはその一歩ではないかと思う。</p> <p>参加者：高齢者の施設は多いが、子ども、特に中学生向けの施設を作ってほしい。例えば塩尻市のえんぱーくのような、ちょっと勉強できそうな場所も必要。これからは子育て支援にお金を使ってほしい。</p> <p>参加者：子どもが地域にいないことが最大の課題。私の町会でいえば、33%が後期高齢者。寿台地区8町会のうち2町会は子どもがいない。こどもプラザの設置を提案したがなしのつぶて。気軽に集える場所を作り、行事に出てこない人をいかに引き出すかが重要。政務活動費を使って地域を歩き、市の提案前に議会で取り組んでほしい。選挙公約に掲げたことをどこまでやったのか、その成果を見せてほしい。</p> <p>議員：祭りになると見たことのない若者が来る。三世代交流にも取り組んでいる。また、子どもを増やすには、住宅政策という手法もある。</p> <p>参加者：市営住宅が老朽化し、高齢者もどんどん減っている。市はどうするつもりなのか。若い人にも入居してもらうにはどうすればよいか考えてほしい。</p> <p>参加者：どうしてこんなに核家族が増えてしまったのか。</p> <p>議員：市内に働く場所をつくる取組みが必要。松本から東京へ通勤できる状況をつくらなければいけない。</p> <p>参加者：松本に勤めていながら、市内に新しく家を建てることができない。</p> <p>議員：昔、都市計画決定がされて市街化調整区域が設定された。調整区域の運用面について、みんなで考えて運動をするのも良い。</p> <p>参加者：南部ブロックの魅力を考えてほしい。高校生の行き場所もない。バンドをやっている子どもは市内だと利用料が高いために塩尻市へ行っている。平田駅もできたが、道路整備がきちんとされていないため、寿地区からは行きにくい。</p>

都市計画に加えて道路計画も練り直してほしい。子どもが外遊びをする場所がないので、小学校区単位で多目的公園を作って欲しい。

参加者：空き家はいっぱいあるが、地域で取り組む場合、町内公民館として借り上げるしかない。それを支援する制度があれば嬉しいが。

議員：地域づくり推進交付金や県の元気づくり支援金の活用も検討してはどうか。

参加者：後払いのため負担が大きい。寿台地区公民館が寿台地区内にない。

参加者：活性化には「わがまちふるさと」という意識が必要。地域づくりセンターやまちづくり協議会という形はできているが、全住民にとって実質的なまちづくりという点では疑問が残る。空き家や子ども食堂など、地区全体で具体性を話し合う場がない。議員にも身近なこととして考えてほしい。

参加者：なぜ若者が祭りに出てこないのか、その原因を分析したほうがいいと思う。

参加者：若い人には祭りなんて関係ないという人が多い。今の時代に合った活性化策を。

参加者：基本は向こう三軒両隣。高齢世代と若者世代の活性化を別々に考えないといけない。

参加者：寿地区は南北に長いため、行事に来てほしい場合は送迎が必要になる。

参加者：個人情報保護の観点に向こう三軒両隣の考えを阻害する。

参加者：広報はいらない、町会には入らないという人が多い。回覧板も読まないし、各戸配布も読まない人がいる。

参加者：中信松本病院の跡地利用は活性化策だと思う。高齢者関係で、娯楽関係でないものを市でできないのか。議会での議論はないのか。動物愛護センターを併設した保健所を提案したこともある。

議員：中信松本病院の跡地利用のことは議会で取り上げている。

参加者：産業廃棄物処理施設もあるが、それもどうするかが課題。

参加者：他県の都市と比べてもアパート・マンションが多い。そこに住んでいる人は地区行事には出てこない。人口は増えるが、市政に無関心な人が増えている。

参加者：この意見交換の場に若い人がいない。40代前半の自分も、地域に戻ってきてほしいと言われず、良い大学を出て、都市部の大企業に勤めることが人生の成功と言われてきた。子どもへの教育により伝えていかないといけない。

地域と関わることも、中学の時にはなかった。

	<p>都会の友人は、田舎には仕事がないというが、実態は人手不足。このマッチングをうまくやらないと、田舎のメリットが伝わらずにもったいない。</p> <p>参加者：地区行事には中学生が戦力として関わっている。そういう機会、場をつくるのが大切。</p> <p>議員：子どもに自主的に取り組んでもらう仕組みがあると良い。</p> <p>参加者：町会側が種まきをしないと、最近の子どもは自主的にはできない。</p> <p>参加者：年末警戒をすると子ども達も参加してくれるので、自分たちも嬉しくなる。</p> <p>議員：子どもの心に残っていれば、将来に返ってくると思う。すぐにはないが、先の希望を持ちたい。</p> <p>参加者：子どもの参加は親の参加につながる。</p> <p>議員：市では定住化促進事業や三世代同居事業を実施している。</p> <p>参加者：若い人は選挙に行かない。みんなで行こうという運動も必要。</p> <p>参加者：若い人が何を考えているのか把握しないといけない。</p> <p>議員：若い母親は無料なら来てくれる。食べ物も効果的。</p> <p>参加者：自分の地区の福祉ひろばに顔を出して、皆さんの話を聞いてもらいたい。情報も手に入り、みんながハッピーになる。</p> <p>議員：議員がもっと地域に出てほしいということだと理解した。</p> <p>参加者：議員数人でよいので、全地区に出て行って、細かく話を聞いてほしい。若い人が集まる状況をつくってほしい。</p> <p>参加者：議員は大人数の方が、こちらも意見を言いやすい。</p> <p>議員：意見を吸い上げることの重要性、議員側の努力を再認識した。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成30年11月20日

上記のとおり報告します。

報告者 青木 崇